



国連PKOに貢献する人々をともに育てる！
日本の新たな取組

国連三角パートナーシップ・プロジェクト



国連平和維持活動(PKO)って何だろう?

国連平和維持活動(United Nations Peacekeeping Operations:PKO)とは、紛争から平和への道を歩もうとする国々を助けるために国連が行う活動です。

日本は、1992年の国際平和協力法(PKO法)の制定以来、計28の国連PKOミッション等に延べ約12,500人以上の要員を派遣し、PKOに積極的に貢献してきました。

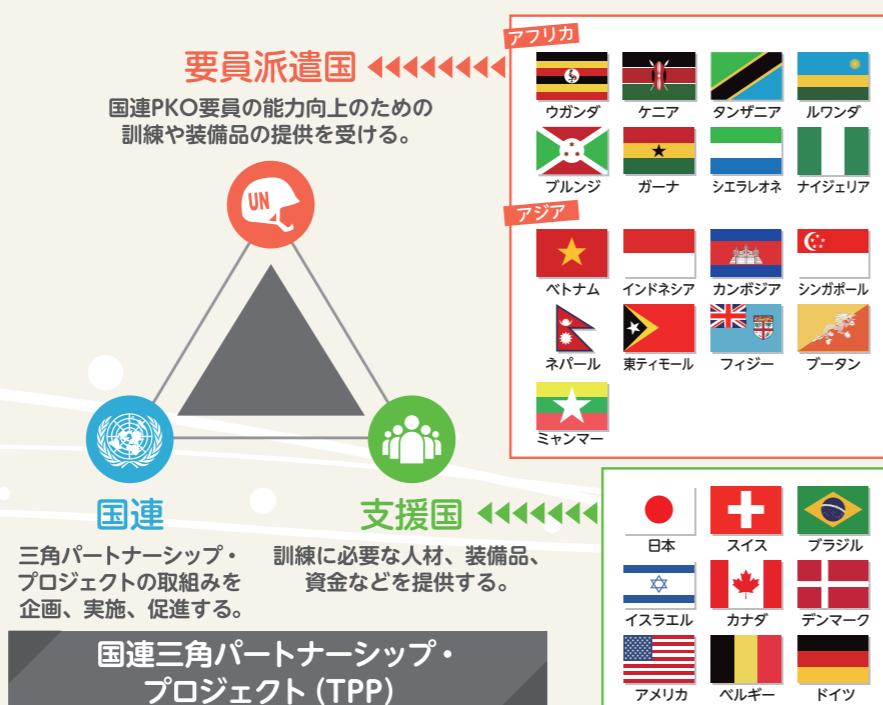


日本、国連、要員派遣国が一体となって平和をつくる



近年のPKOでは、道路を整備する重機などの装備品の数が足りなかつたり、操作要員がないことが原因で、国連PKOの任務の迅速な開始に大きな支障が生じています。また、PKO要員の能力を高めることは、彼ら自身の現場における安全を確保することにも密接に関連します。2014年9月の第1回PKOサミット(ニューヨーク)において、安倍総理は、PKOが適切な要員と装備品を備え、ニーズに即応し現場で速やかに活動を開始できるように、PKO要員・部隊に対して重機操作の訓練を実施することや装備品を提供することを表明しました。それを受け、国連三角パートナーシップ・プロジェクト(UN Triangular Partnership Project: TPP)が始動しました。これは、財政支援・教官派遣等を行う支援国(例:日本)と、プロジェクトの企画・実施を行う国連が連携し、要員派遣国のPKO要員・部隊に対して訓練を行うという、三者が互いに協力して効果的に支援を行う革新的なモデルです。

2015年、この枠組みの下、日本の支援・教官派遣により、アフリカにおいて、国連PKOで活躍が見込まれる要員に対して、重機の操作訓練が開始されました。2018年、日本は、このプロジェクトをアジア及び同周辺地域にも拡大しました。2019年12月現在、日本は、このプロジェクトに対して資金協力等を行う最大の支援国です。日本に続いて、スイス、ブラジル、イスラエル、カナダ、デンマーク、アメリカ、ベルギー、ドイツが、TPPの下での訓練に参加し、TPPの支援の輪は広がりつつあります。



TPPにおける日本の具体的な取組

アフリカ

日本は、2015年のTPP開始以来、2019年12月までに、計9回の訓練のため陸上自衛官等延べ172名を教官として派遣し、ケニアのナイロビやウガンダのジンジャにて、8か国の工兵(施設)要員277名に対して重機の操作や整備の訓練を実施してきました。訓練を受けた要員の多くは実際にPKOに派遣され、施設活動に従事することが期待されています。



アジア及び同周辺地域

PKO要員の30%以上は、アジア及び同周辺地域から派遣されているため、2018年から、重機の操作訓練がアジアでも開始されました。ベトナムのハノイで行われた訓練に9か国16名の訓練生が参加し、日本は、陸上自衛官等20名を教官として派遣し訓練を実施しました。さらに、2019年、日本は、ハノイで行われた訓練に陸上自衛官19名を派遣し、ベトナムの工兵(施設)要員20名に対して訓練を実施しました。



医療分野



国連PKOの現場では、近年、毎年100名近くのPKO要員が死亡しているのが現状です。応急処置のガイドラインが整っておらず、負傷時に適切な応急処置がとられなかったことが原因で死亡する例もあり、深刻な問題となっています。日本は、TPPの枠組みを医療分野にも広げ、2019年10月より救命訓練を開始しました。これからもPKO要員の安全の向上に貢献していきます。



国連通信学校プロジェクト



国連PKOは、十分な通信インフラが整っていない地域で活動しています。一方で、迅速・正確な情報伝達は、PKO活動、特に緊急時の事態対処に不可欠です。日本は、国連通信学校に対する支援を通じ、アフリカのPKOに派遣される各国通信要員の訓練を行い(2019年12月時点で延べ5,805名)、PKO部隊の能力の向上に貢献しています。

訓練の参加者の感想

(アフリカ) タンザニアから参加した訓練生

私は今までの人生で、ここまで熱心な教育を受けたことはありませんでした。日本の自衛官は、常に温かい心で、忍耐強く、自身の持っている知識と技術を惜しみなく教えてくれました。重機操作の初心者私たちに対し、講義、実演、日々の演習、週末の補講など、あらゆる手段を模索して、教育してくれました。そのおかげで、重機の操作について何も知らなかった私たちが、期間中にすべての重機を操作できるようになりました。この技術は国連PKOのみならず、自身の将来、そして母国タンザニアの将来にもつながるものです。帰国後、このコースで学んだことを、同僚や部下たちに、伝えていきたいです。このような支援を、ぜひ今後も継続・発展させてほしいと思います。



(アジア及び同周辺地域) 東ティモールから参加した三等軍曹

国連PKO要員は、私たちの国ではヒーローのような存在で、今回の訓練にも、世界の平和と安定に貢献したいという強い気持ちをもって参加しました。実際の訓練では、陸上自衛官の教官方は、限られた訓練環境(訓練期間や重機の数)においても、課業時間外も活用して、訓練生の各々の目線に合わせた教育を実施してくれました。

ある日、毎日、訓練開始の1時間以上前に訓練場に向かう陸上自衛官の教官に「こんなに早くから訓練場で何をしているのですか。」と尋ねたところ、教官は「訓練生が少しでも多くの時間、重機操作の練成に携われるよう、訓練開始前から準備をしているのです。」と答えました。そのとき、私は「日本の教官は、自己の損得を抜きにして訓練生に対する思いやりと教育者としての責任感をもつて教育をしてくれている。」と実感しました。今回の経験を活かして、私は、自國で教官になりたいと思いますが、日本の教官のように、訓練生に対する愛情と教育者としての強い責任感をもって、教育していきたいと思います。



写真提供元：防衛省

〒100-8919 外務省 東京都千代田区霞が関2-2-1 TEL:03-3580-3311(代表)

編集：総合外交政策局国際平和・安全保障協力室

発行：国内広報室 2020年2月